

SHIMA 月刊ニュースレター

モーリシャス

2025年10月



** 主要ポイント **

政治: マダガスカル人実業家マミー・ラバトマンガのモーリシャスにおける活動が調査対象に

外交: 英国下院、チャゴス諸島法案を可決

経済: モーリシャス中央銀行が1500万ドルを注入し、モーリシャス・ルピーの安定化を図る

経済外交: 日本がアーチ職業訓練センターに機材供与

文化: 2025年日本映画祭がヘネシー・パーク・ホテルで開催

政治

[国内]

● ラバトマンガ氏に対する捜査



(写真提供: DefiMedia)

10月12日未明、マダガスカルで民衆による大規模なデモと政府の転覆が発生し、アンタナナリボ発のプライベートジェット機がモーリシャスの空港に着陸し、物議を醸した。ンツァイ・マダガスカル前首相 (Mr. Christian Ntsay) (2018-2025年)と、マダガスカル人実業家であるラバトマンガ氏 (Mr. Mamy Ravatomanga) が同機に搭乗していた。ラバトマンガ氏はソディアット・グループのオーナーであり、亡命中のラジョエリナ・マダガスカル前大統領 (Mr. Andry Rajoelina) の側近として知られ、マダガスカル版 Forbes誌で国内第2位の富豪に選出されている。

プライベート機の着陸はモーリシャスとマダガスカル双方に動揺と困惑を引き起こした。着陸当時首相代理の立場にあったペランジェ副首相 (Mr. Paul Berenger) は、本件着陸について事前に知らされていなかったと発表。着陸許可がどのように出されたのかを明らかにするため調査が開始された。



(写真提供: Le Mauricien)

渦中にあるラバトマンガ氏は、フランスとマダガスカルにおける複数の脱税事件や金融犯罪の容疑について報道されている。具体的には、公金横領、国家による特例措置とオフショア企業を利用した絶滅危惧種ローズウッドのアジアへの違法取引、さらにパリでの複数の不動産取得における「組織的な資金洗浄」と「脱税」の容疑で告発されている。これにはモーリシャスに拠点を置くものを含むオフショア企業を絡めた不透明な金融取引が関与している。さらに2025年7月、

米国の制裁に違反し、ボーイング777型機5機をiranのマハン航空へ違法移送した疑いも持たれている。



(写真提供: News Moris)

モーリシャス在住のマダガスカル人からの告発を受け、同氏は金融犯罪委員会(FCC)とモーリシャス歳入庁(MRA)による調査の対象となった。同氏は詐欺的な金融取引を行ったと非難されている。10月15日、FCCは彼の行動を監視するため「出国報告書」を発行。10月24日、資金洗浄容疑で逮捕され、同氏の資産は、マダガスカル最高裁判所が発行した刑事差押命令により凍結されている。ラバトマンガ氏を支援した疑いのある他の個人(FCCの調査に影響を与えた疑いを含む)も逮捕されている。

マダガスカルは、この進行中の事件を監視するためモーリシャス当局との協力を求めている。

● エネルギー危機

10月15日、中央電力委員会(CEB)は電力需要に関する危機的状況について「赤警報」を発令。電力系統の過負荷を回避し停電を防ぐため、国民に対し対策の実施が呼びかけられた。同日、エネルギー効率に関する全国的な啓発・情報キャンペーンが開始。CEBは、緑・黄・赤のカラーコードに基づく「エネルギー警戒警報システム」を導入中。このシステムは系統電圧レベルをリアルタイムで周知し、電力共有が危機的状況になった場合に節電を促すもの。

● ワカシオ号事故調査裁判所の報告書が公表



(写真提供: DefiMedia)

ワカシオ号座礁事故に関する調査委員会の報告書全文が10月2日に公開された。報告書は事故が技術的な故障ではなく、一連の海事規律違反によって引き起こされたと結論付けた。船長は飲酒しており、乗組員は航行安全を無視してインターネット信号を探していた。さらに調査委員会は、モーリシャス国家沿岸警備隊の管理体制と準備態勢にも不備があったと指摘。報告書は、モーリシャス当局による船舶監視の強化、海上緊急事態への備えの改善、国際的な安全・環境保護基準の厳格な施行を求めている。

● 海洋会議 2025



(写真提供: ル・モーリシアン)

10月7日、ブレル農産業・食料安全保障・ブルーエコノミー・漁業大臣(Mr. Arvin Boolell)は、海洋会議(Les Assises de l' Ocean)に先立つ事前協議対話を正式に開始。10日間にわたる一連の会議では、民間セクターと他国のパートナーの代表者が集まり、持続可能な海洋の開発とモーリシャスのブルーエコノミーの将来について議論した。ブレル大臣は、気候変動に直面する海洋資源保護の重要性を強調しつつ、モーリシャスのブルーエコノミー強化には包括的で成果重視のアプローチが必要であると訴えた。

● ロドリゲス島－自治権獲得23周年記念

10月12日、ロドリゲスは自治確立23周年を記念。ゴクール大統領(Mr. Dharam Gokhool)はロドリゲス島を訪問し、カン・デュ・ロワのジャン・ダニエル・アンドレ競技場で開催された公式式典において、演説を行った。大統領はモーリシャス政府がロドリゲス島の発展を支援するとの確約を改めて表明。2001年制定の「ロドリゲス地域議会法」に基づき2002年に発効した自治は、ロドリゲスの実情に即した地方統治を提供することを目的としている。以来、地域議会は農業、漁業、観光、環境、教育といった主要分野を管理するとともに、独自の行政機構構築に努めてきた。

[外交・国際関係]

● マダガスカル危機のモーリシャスへの影響



(写真提供:DefiMedia)

マダガスカルのZ世代運動が主導する抗議活動は、2025年9月、頻発する断水・停電と広範な汚職を契機に勃発。ラジョエリナ大統領(Mr. Andry Rajoelina)が政府を解散し、軍の幹部が新首相に任命された後、マダガスカル軍の一部部隊が抗議者側に加担しクーデターを実行。ラジョエリナ大統領は国外逃亡し、新政権によりマダガスカル国籍を剥奪された。

モーリシャス政府は危機を注視し、平静を呼びかけ、暴動の終結に向けた仲介継続をマダガスカル関係者に促している。モーリシャスは憲法枠組みの尊重を堅持し、アフリカ連合(AU)の協調的な解決の要請に賛同。AUが提案するマダガスカルの制度正常化・平和・安全保障回復支援も支持。モーリシャス政府はマダガスカル在住の自国民とも連絡を取っている。

国連のCOMTRADEデータによると、2024年におけるモーリシャスの対マダガスカル輸入総額は3,180万米ドルであり、マダガスカルは依然としてモーリシャスにとって重要な経済パートナーである。しかし、マダガ

スカルの緊張状態を受け、経済専門家はモーリシャス経済への影響を予測している。

ナーシンゲン外務閣外大臣(Mr. Rajen Narsinghen)は、マダガスカル情勢が両国間の貿易および現地でビジネスを展開するモーリシャス企業に直接的な影響を及ぼす可能性を認めた。ブードゥー外務省元国際貿易局長(Mr. Sunil Boodhoo)は、貿易(輸入・輸出双方)が大幅に減速し、経済活動が深刻な混乱に陥る恐れがあると強調した。

● チャゴス諸島主権に関する合意

10月21日、英国下院はチャゴス諸島及びディエゴ・ガルシアの管理に関する英国とモーリシャスの共同合意に関する議論で、ディエゴ・ガルシア軍事基地及び英國領インド洋地域法案を可決。議論では意見の対立が浮き彫りとなり、保守党からは英國政府が主権を損ないチャゴス諸島民の権利を軽視しているとの批判があった一方、労働党閣僚らは条約が英国外交と地域安定に果たす役割を主張。外国の影響力や環境問題への懸念にもかかわらず法案は可決され、今後は上院を経て、国王の裁可(ロイヤル・アセント)を得る段階に進む。一部議員はチャゴス諸島民のディアスボラとの協議も求めた。

● セーシェル・モーリシャス二国間関係

10月26日、ラングーラム首相はエルミニ・セーシェル共和国新大統領(Mr. Patrick Herminie)の就任宣誓式に出席。この訪問は、インド洋委員会(IOC)における地域協力・連帯・共同発展の精神の下、セーシェルとの外交・経済関係強化を望むモーリシャス政府の意思を示すもの。

ラングーラム首相はこの機会にインドのラダクリシュナン副大統領(Mr. Shri C.P. Radhakrishnan)とも会談を行った。同副大統領も就任式典に続き、エルミニ大統領への表敬訪問を行った。



(写真提供:L'express maurice)

● モーリシャスと国連

国連開発計画(UNDP)のモーリシャス・セーシェル常駐代表に新たに任命されたアルカ・バティア氏(Ms. Alka Bhatia)が、10月6日にラムフル外務・地域統合・国際貿易大臣(Mr. Ritish Ramful)を表敬訪問した。バティア氏はインド国籍で、貧困削減、貿易、持続可能な開発を専門とし、これまでUNDPのナミビアやセーシェルの駐在代表を務めるなど、国際開発分野で30年以上の経験を有し、様々な指導的役割を担ってきた。

また、10月14日に国連総会で行われた国連人権理事会理事国選挙において、モーリシャスは190票中181票を獲得し、理事候補国の中で最高得票を記録。モーリシャスの任期は2026年から2028年まで。ジュネーブに本部を置く国連機関において3度目となる理事国就任。同理事会の使命は、人間の尊厳を守り、世界中で基本的人権が尊重されることを確保することである。モーリシャス外務省は声明において、今回の選出を「人権と国際司法問題におけるモーリシャスの積極的役割が認められたもの」と歓迎した。モーリシャス政府は平和、平等、自由の保護に向けた取り組みを継続することを約束した。

10月24日、ラムフル外務大臣は、国連創設80周年および国連協会モーリシャス支部創立50周年を記念する式典で演説を行い、国連が全ての国に平等な発言権を与える役割を強調。平和で公正かつ持続可能な世界の構築に向け国連と連携するモーリシャスの決意を改めて表明した。また、モーリシャス国連協会(UNA)が国際的な理念と地域のニーズを結びつけていることを称賛。ラムフル大臣は、地球規模の課題に対処するための対話、協力、連帯の重要性を強調し、モーリシャスが「2030アジェンダ」と気候正義を支援していると述べた。

● 中国・モーリシャス二国間関係



(写真提供: DefiMedia)

10月9日、黄世芳駐モーリシャス中国大使(Ms. Huang Shifang)は、アディル・アミア・ミー・ア産業・中小企業・協同組合大臣(Mr. Aadil Ameer Meea)を表敬。その際、大臣はジンフェイ経済特区の潜在力を強調し、そのインフラと戦略的な立地が製造活動や国際的な展示会や会議の開催に理想的であると述べた。同大臣は、中国産業を同特区に誘致するための新たな取り組みを呼びかけ、黄大使もこの提案を歓迎し、中国大使館が関連する投資家に伝えることを約束した。

10月13日、上海で開催される中国国際輸入博覧会(CIIE)に先立ち、在モーリシャス中国大使館と経済開発総局(EDB)は、ラブルドネホテルにて、モーリシャス企業の同展示会への参加を奨励するための会議を開催。「CIIEを通じたモーリシャス・中国ビジネスパートナーシップの強化」と題する本会議には、外交団、経済機関、民間セクターの代表者が参加した。

● インド・モーリシャス二国間関係

インド海軍艦艇(INS)サトレイ号は、10月2日から18日にかけてモーリシャス海域で第18回共同水路測量任務を実施。INSサトレイ号は約9,800海里を航行し、高解像度ソナーシステムを用いて約35,000平方海里を測量した。調査で収集されたデータは、モーリシャスの様々な関係者の水路測量ニーズに応え、最新の航海図や水路測量製品の作成に貢献する。調査の成功を祝し、シユリヴァースタヴァ駐モーリシャス・インド高等弁務官(Mr. Anurag Srivastava)とサトレイ艦長のグプタ中佐(Mr. Varun Gupta)は、船上にてレセプションを開催。

10月24日、閣議において、タマリン滝貯水池における浮体式太陽光発電所プロジェクトの実施を承認。本件はモーリシャス政府とインド政府間の二国間協定の一環として、インド国営火力発電公社(National Thermal Power Corporation Ltd)に委託される。本プロジェクトでは、貯水池上に17.5MWの浮体式太陽光発電所を建設するとともに、12MWの蓄電池エネルギー貯蔵システム(BESS)を併設する。

経済

● 外国為替市場:モーリシャス中銀、ルピー安定化のため1500万ドルを注入

モーリシャス中央銀行(BoM)は10月9日、国内外外国為替市場に介入し、1ドル=45.20ルピーのレートで総額1,500万米ドルを売却した。この措置は、外国為替市場の安定化を図る中央銀行の取組に沿ったもの。10月2日、BoMは既に1,500万米ドルを1ドル=約45.26ルピーで売却しており、今回の介入により、モーリシャス中銀による年初からの外貨売却総額は1億6,000万米ドルに達した。

● MAUSTATS開始:モーリシャス統計局の業務に人工知能を統合

10月22日、モーリシャス統計局(Statistics Mauritius)創設80周年および世界統計の日を記念し、同統計局はワークショップを開催するとともに新デジタルプラットフォーム「MauStats」を開設した。ラムトハル情報技術・通信・イノベーション大臣(Avinash Ramtohul)は、次なるステップとして統計モーリシャスの業務に人工知能を統合し、より詳細な分析とデータ活用の向上を図る方針を強調した。この取り組みは、信頼できる情報に基づく意思決定を強化し、国の経済計画を支援することを目的としている。同大臣はまた、本年の政府予算においてAI事務局の設置が規定されていることを想起し、その役割は統計局と緊密に連携し、データ分析における技術と人工知能の活用を強化することであると述べた。

● 繊維産業:アフリカ諸国の大臣、経済活性化と雇用創出に向けた重要合意に達する

10月20日、アフリカ大陸自由貿易圏(AfCFTA)の貿易担当大臣第17回会合がビデオ会議方式で開催され、ラムフル外務大臣(Ritish Ramful)が参加した。エジプトのハッサン・エル・ハティブ投資・対外貿易大臣(Hassan El-Khatib)が議長を務めたこの会合では、数年にわたって停滞していた、繊維・衣料分野における原産地規則に関する最終交渉が最優先課題であった。

ラムフル大臣はスピーチにおいて、世界的な貿易の不安定化や、アフリカ大陸の経済が外的要因に影響を受ける中、強靭性を構築することの緊急性を強調した。同大臣は、特にアフリカ成長機会法(AGOA)の将来が不透明な状況において、アフリカの輸出業者が

AfCFTAが提供する貿易優遇措置の恩恵を十分に享受できるよう、交渉の迅速な妥結を求めた。

議論の結果、加盟国は繊維・衣料品に関する重要な合意に達した。この合意は、大陸内での関税優遇措置を伴う同製品の販売を可能にするものである。これにより、地域的なバリューチェーンの構築が促進され、投資誘致やアフリカ全域での雇用創出が支援されると期待される。この成果は、AfCFTAの効果的な運用に向けた戦略的な一步を刻むものであり、アフリカ経済統合に新たな推進力を与えるものである。

経済外交

● 日本がアーチ職業訓練センターに機材供与



(写真提供:モーリス・インフォ)

10月7日、日本政府はポートルイス・ロシュボワにあるNGO「涙する人々のための協会」のアーチ職業訓練センターに対し、訓練機材を供与した。これらの機材は教室や実習室に設置され、受益者に対する製パン・調理、理美容、木工などの技能訓練や実践的学習の強化に活用される。日本の草の根・人間の安全保障無償資金協力(GGP)により提供され、約250万ルピー相当の寄贈となる。日本とモーリシャスのこの連携は、地域コミュニティの開発を支援する長年の協力関係に基づくもの。

● 日本が支援するサンゴ礁と海洋温暖化に関するハイレベルワークショップ開催

10月15日、モーリシャス大学は地球温暖化の脅威からサンゴ礁を保護することを目的とした「サンゴ礁と海洋温暖化」(CROW2025)と題するハイレベルワークショップを開催した。本ワークショップは、静岡大学、モーリシャス大学、オディッセオ海洋サンゴ保護研究教育ステーション(C2RE)、SECOREインターナショナル社、生物多様性環境研究所(BEI)、および株式会社商船三井の協力により実施された。この会議の主目的は、公益信託商船三井モーリシャス環境回復保

全・国際協力基金の枠組みで実施された最近の研究成果の発表。モーリシャス大学、静岡大学、BEIの研究者らは、スタンフォード大学およびSECORE International Ltdの専門家と協力し、モーリシャスのサンゴ礁に関する研究成果を共有した。

● カタール・モーリシャス関係



(写真提供:DefiMedia)

モーリシャスはカタール当局と、二つの分野における将来的な協力に向けた協議を開始した。民間航空分野では、モーリシャス航空とカタール航空の戦略的提携を目指し、モーリシャス航空の財務業績の向上及びカタール航空のドーハ・ハブを通じた新規市場への航空ネットワーク拡大を図る。エネルギー分野では、液化天然ガス(LNG)の輸入と、ポートルイスにおけるLNG受入施設建設を推進。より安定的で持続可能な資源への移行のため、モーリシャスのエネルギー源多様化を図ることを目的としている。

安全保障

● インド洋津波訓練“IOWAVE25”



(写真提供:GIS Mauritius)

*月刊誌の内容はモーリシャスのメディア報道に基づいています。

10月15日、モーリシャスはユネスコ政府間海洋学委員会との共催による津波防災・シミュレーション演習「IOWave25」に参加した。この地域イニシアチブは、インド洋沿岸諸国における津波防災体制、早期警報システム、対応能力の強化を目的としている。本演習には、災害対応能力の向上に取り組む20カ国以上のインド洋沿岸国が参加し、モーリシャスからは、首相府が国家防災リスク管理センター(NDRRMC)およびモーリシャス気象局と連携して参加した。

● モーリシャス、合同海上部隊(CMF)に加盟

米国は8月12日、モーリシャスが世界最大の海上安全保障連合である合同海上部隊(Combined Maritime Forces, CMF)の47番目の加盟国となったことに祝意を表した。この組織は国際海域約320万平方キロメートルを管轄し、特にインド洋及び世界の主要航路の安全保障・安定・繁栄の維持に取り組んでいる。合同海上部隊司令官である米国海軍ジョージ・ウィコフ中将是、モーリシャスのCMFへの加盟を歓迎した。

● 国際海事機関(IMO)海上保安に関する国内ワークショップ開催

ブレル農産業・食料安全保障・ブルーエコノミー・漁業大臣(Arvin Boolell)は、国際海事機関(IMO)の海上保安関連法的文書の国内法化のための全国ワークショップ開会式に出席した。IMOとの共催で9月29日から10月2日まで開催された本ワークショップには国内外の関係者が集結し、モーリシャスの海上保安体制強化、国際基準への適合確保、同国海洋管理区域の持続可能な管理推進を図った。

教育

● ミドルセックス大学モーリシャス校、キャンパスを拡張、海外提携を拡大

ミドルセックス大学モーリシャス校は、スコン(Kaviraj Sukon)高等教育・科学・研究大臣、英国大使館関係者、メدين、ミドルセックス大学ロンドン校の代表者の出席の下、フリック・アン・ブラックキャンパスに新棟を開設した。また、拡大戦略の一環として、同校は国際展開を推進しており、ダラジャパン、クレアテア、ウイングロボティクスと覚書を締結。これにより、日本の団体・企業との間で、採用、応用研究、インターンシップ、共同研究の機会が広がる。

スポーツ

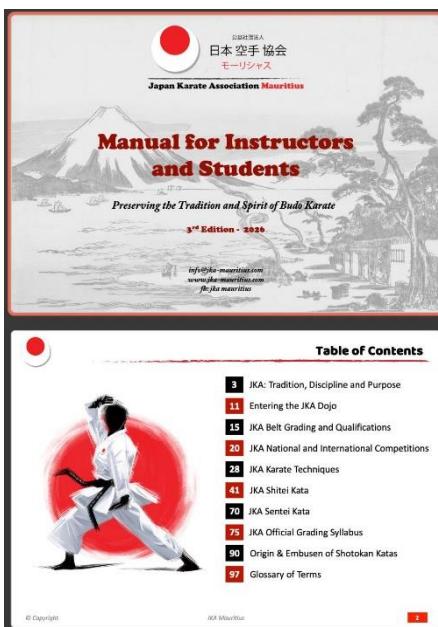
● アディル・ドゥキー、2025年タイ・世界柔術選手権出場権獲得

アディル・ドゥキーは、11月1日から7日にかけてタイ・バンコクで開催される世界柔術選手権大会に、モーリシャス代表として唯一選出された。同選手は、自身のカテゴリーにおける世界ランキングと、2024年アフリカチャンピオンのタイトルが評価され選出された。主な実績には、2024年ギリシャ世界選手権での銅メダル獲得、2023年フルコンタクト柔術アフリカ選手権優勝などが含まれる。今年はブラジリアン柔術、ノーギ柔術、フルコンタクト柔術など複数の種目で戦う予定。



(写真提供: DefiMedia)

● JKA モーリシャス:指導マニュアル第3版を発行



(出典: L' Express)

10月23日、日本空手協会(JKA)モーリシャス支部は、松濤館空手の指導マニュアル第3版の発行を発表した。このマニュアルには、JKAの師範が実演する空手の技法が掲載されており、モーリシャス国内の約20道場とロドリグス島の1道場に配布される予定である。

文化

● 2025年日本映画祭

10月12日、在モーリシャス日本大使館とヘネシー・パーク・ホテル共催による日本映画祭の最新回が、エベヌにある同ホテルで開催され、2022年公開のドラマ映画『土を喰らう十二ヶ月』と2011年公開のアニメファンタジー映画『ももへの手紙』の2作品が上映された。上映後には、意見交換会が行われ、どら焼きと抹茶アイスクリームが提供された。また、ホテル内の「SushiMe」レストランでは、同映画祭に併せて日本料理のビュッフェが提供された。



● チャイナタウン・フード＆カルチャーフェスティバル2025

チャイナタウン・フード＆カルチャーフェスティバル2025が10月25日～26日、モーリシャスのポートルイスで開催された。18回目となる今年のフェスティバル

ルでは、伝統的な中華料理、ライブ音楽とダンス、獅子舞と龍舞のパレード、工芸品展示などが行われた。また、新たに獅子舞アカデミーが導入され、来場者は無料で獅子舞の技法を学ぶことができた。



(写真提供:DefiMedia)

●ナターシャ・アパナ、ゴンクール賞有力候補に

モーリシャス出身の作家ナターシャ・アパナ (Nathacha Appanah) は、最新作『La nuit au cœur』(心の夜)により、フランス学士院が選出する小説大賞「グランプリ・デュ・ロマン」の最終候補 10 名に選ばれた。さらにレノードー賞、メディシス賞、フェミナ賞にもノミネートされ、同作品で権威あるゴンクール賞の最終候補 4 名の一人にも選出されている。『La nuit au

œur』は 2025 年 8 月にガリマール社より刊行され、批評家から高い評価を得た。この作品は、著者自身を含む 3 人の女性が、パートナーである男性たちから虐待、心理的操作、暴力、殺害の被害に遭った実話を描いている。



(出典:Lemauricien.com)

<大使館情報>

連絡先

住所 : **Embassy of Japan in Mauritius, Level 6, Tower C, 1 Exchange Square, Wall Street, Ebene, 72201**

電話番号 : **(230) 460 2200, Fax:(230) 468 6612,**

E メール:japanembassy@mx.mofa.go.jp

当館ホームページ: https://www.mu.emb-japan.go.jp/itprtop_en/index.html

当館フェイスブックもぜひご覧ください! <https://www.facebook.com/JapanEmb.Mauritius/>

当館活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

【領事班からのお知らせ】

●モーリシャスに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)
